

**土肥原賢二** 陸軍軍人。対中謀略の専門家で、<満州事変>前後に暗躍、敗戦後、A級戦犯で死刑となった。

どひはらけんじ

岩倉具視没・1883 = 岡山市に陸軍少佐土肥原良永の次男として生まれる。

**帝国憲法発布**1889 = 6歳 :

大本教・・・1892 = **9歳** :

**日清戦争始**・1894 = 11歳 :

白馬会・・・1896 = 13歳 : 仙台地方陸軍幼年学校へ入学。

田中正造直訴1901 = **18歳** :

**日露戦争始**・1904 = 21歳 : 陸軍士官学校(16期)を卒業，

**日露戦争終**・1905 = 22歳 :

韓国併合・・・1910 = **27歳** :

**明治天皇没**・1912 = 29歳 : 陸軍大学校(24期)を卒業し，

大正政変・・・1913 = 30歳 : 北京の坂西公館に勤務，以後，对中国謀略に関わる。

本格政党内閣1918 = 35歳 : 黒竜江督軍の応聘武官となり，

**八咫鳥条約**・1919 = **36歳** : 少佐に進級。

大暴落・・・1920 = 37歳 : 一時帰国したが，引き続き沿海州，中国，欧州に出張，

**原敬首相暗殺**1921 = 38歳 :

水平社結成・1922 = 39歳 : 帰国したが，参謀本部員として再び中国に出張，

**関東大震災**・1923 = 40歳 : 中佐に進級。

坂西機関で(のちには独立して)，段祺瑞派育成などの対中工作に従事する。

歩兵第二聯隊付などを経て，

金融恐慌・・・1927 = 44歳 : 大佐に進み，

共産党事件・1928 = **45歳** : 1年間奉天督軍顧問を勤めた。

歩兵第30聯隊長などを経て，

**満州事変**・・・1931 = 48歳 : \*中国に出張して天津機関を開設，石友三の拳兵を利用して張学良弱体化を図ったが不調に終る。奉天特務機関長となり，折から進行中の<満洲事変>計画に関与したが，事変勃発時は一時帰国中で，帰任後，一時奉天市長を勤め，薄儀の天津脱出を実現させた<天津事件>。

五一五事件・1932 = 49歳 : 哈爾濱特務機関長となり，少将に昇進，歩兵第九旅団長となる。

国際連盟脱退1933 = 50歳 : 奉天特務機関長に復帰し，華北分離工作に従事，

芥川直木賞始1935 = 52歳 : \*土肥原・秦徳純協定により察哈爾省方面での排日機関の解散，宋哲元軍の長城以南への撤退を実現。

二二六事件・1936 = 53歳 : 帰国して中将に昇進，留守第一師団長となる。

**日中戦争始**・1937 = **54歳** : 第14師団長となり華北に出動，

健保+総動員 1938 = 55歳 : \*土肥原機関長(参謀本部付)として，中国大陸の日本軍占領地域での統一中央政権樹立にあたり，呉佩孚擁立を企てるが失敗に終る。

第二次大戦始1939 = 56歳 : 第5軍司令官に転じ，

大政翼賛会・1940 = 57歳 : 軍事参議官となる。以後，航空總監・東部軍司令官・第7方面軍司令官を歴任，

**日米開戦**・・・1941 = 58歳 : 大将に昇進。

**敗戦**・・・1945 = 62歳 : 教育總監に就任した。

新憲法公布・1946 = **63歳** :

敗戦後"東京裁判"でA級戦犯として死刑判決を受け，

極東裁判決・1948 = 65歳 : 刑死した。